

赤十字病院にも忘れ外来

清水 山田副院長「早期発見へ受診を」



「気になることがあれば、まず受診してほしい」と話す山田副院長

【清水】清水赤十字病院（藤城貴教院長）は4月から「もの忘れ外来」を新設した。担当する山田英孝副院長は「自身や家族に物忘れが多いなど、気になることがあれば一度受診してほしい」と話している。

従来は精神科 敷居低く

山田副院長は精神科医で認知症を専門としている。昨年4月に岩手県陸前高田市
の精神科・神経内科専門の民間病院から、清水赤十字病院に着任した。山田副院長は「清水での勤務が1年たつが、認知症の患者は、症状がかなり進んでから受診する例が非常に多い」という。認知症になる原因は数多くあり「原因によっては、早期発見できれば治療して改善する可

能性もある。これまでは精神科で対応していたが、気軽に受診してもらえよう『もの忘れ外来』を新設した」と話す。

同外来では、物忘れなどの症状が年相応のものなのか認知症の疑いがあるのかを診断する。診察では、普機能検査、血液検査、画像検査などを行い診断する。山田副院長は「日常の様子を聞き取りするため、家族など普段一緒にいる人と受診してもらおうのが望ましい。気になることがあれば早めに受診を」と呼び掛けている。

もの忘れ外来の診療時間は、金曜の午前9時～正午、午後2時～同5時（受け付けは午前8時半～正午、午後1時～同4時半）。問い合わせは清水赤十字病院（0156・62・2513）へ。（平田幸嗣）